

「西大寺本金光明最勝王經平安初期点
卷一 訓読文（xml）」
解説書

柳原恵津子（国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員）

2021 年 11 月

目次

第1章 「西大寺本金光明最勝王經平安初期点 卷一 訓読文 (xml)」の構築経緯と特徴	1
第2章 「西大寺本金光明最勝王經平安初期点 卷一 訓読文 (xml)」の仕様	3
1. コーパス化の対象	3
2. 文字入力	3
2.1. 基本方針	3
2.2. 文字集合	3
2.3. 外字	3
2.4. 特殊な表記	4
2.5. 異訓の優先順位	4
2.6. 補読を伴う読みの確定方法について	4
3. XML タグセット	5
3.1. 概要	5
3.2. 文章構造に関わる要素	6
3.2.1. text 要素	6
3.2.2. body 要素	7
3.2.3. back 要素	7
3.2.4. article 要素	8
3.2.5. p 要素	8
3.2.6. block 要素	9
3.2.7. s 要素	9
3.2.8. quotation 要素	10
3.2.9. pb 要素	11
3.2.10. br 要素	11
3.3. 本文修正に関わる要素	12
3.3.1. odoriji 要素	12
3.3.2. g 要素	12
3.3.3. vMark 要素	13
3.3.4. kanji 要素	14
3.3.5. okototen 要素	15
3.3.6. kanaten 要素	15
3.3.7. hodoku 要素	16
3.3.8. mute 要素	16
3.3.9. period 要素	17

3.3.10. aPhone 要素.....	17
3.4. その他の要素	18
3.4.1. ruby 要素.....	18
3.4.2. rb 要素.....	18
3.4.3. rt 要素.....	18
3.4.4. choice 要素.....	19
3.4.5. yakubun 要素	19
3.4.6. betsu hitsu 要素.....	20
参考文献.....	20

第1章 「西大寺本金光明最勝王經平安初期点 卷一 訓読文 (xml)」の構築

経緯と特徴

「西大寺本金光明最勝王經平安初期点 卷一 訓読文 (xml)」は、数多く現存する訓点資料のうちもっとも広く知られ、加點年代、加點の質、言語量などあらゆる意味において最上の価値を有する西大寺本「金光明最勝王經」平安初期点の訓読文コーパスである。

国立国語研究所で長年にわたって構築に取り組んできた「日本語歴史コーパス」(CHJ)は、近年、日本語史研究に利用されてきた主要なジャンルの資料のうちかなりの部分が収録されたといつてよい段階に至っている。このような中であつて、訓点の処理といった課題が多くある漢文訓読系の資料のコーパス化はやや遅れて開始されたが、近年、奈良時代編「Ⅱ宣命」(2020年)、同「Ⅲ祝詞」(2021年)の公開が相次いで実現し、漢文訓読系の資料に対応する技術が徐々に整えられてきた。本コーパスはこの流れを受けて、加點情報の多い本格的な訓点資料の訓読文コーパスを提供するものである。9世紀前半の漢文訓読の場で使用された語彙・語法を観察することが、本コーパスによって可能となる。

先にも触れたとおり、訓点資料のコーパス化にあたっては、他の資料とはことなる独自の課題が多くあつた。ヲコト点、仮名点、合符、返読符号といったさまざまな符号類が付されるため原本¹の状況が複雑であること、訓点がない部分は作業者が補読する必要がある、かつ使用者にその旨を明示しなければならないこと、原本の状況を再現しながらそれと同時に用例として引用しやすい訓読文を提供する必要あることなどである。原本に記された多彩な情報のうち、何を検索可能にするべきなのか、どうしたら加點された情報をできるだけ詳細に表示できるかを検討するために多くの時間を要した。だが、今回これらの課題を一定の水準でクリアしたコーパスを提供できたのではないかと考えている。

もう一点、本コーパスの大きな特徴として挙げられるのが、本文となる訓読文を新しく作成しなおしたという点である。「金光明最勝王經」平安初期点には、すでに春日政治による優れた訓読文がある(春日(1942))。従来の日本語史研究に多く寄与し、さまざまな研究に用例として引かれてきた春日の訓読文はゆるぎないものだという認識が持たれてきたと言えるだろう。だが、2013年に勉誠出版から影印が刊行され(総本山西大寺(2013))、春日が訓読文に反映しなかった実際の句点・返読符号・合符、本資料に特徴的な「分別符」の有無や、仮名点の書かれた位置、ヲコト点の位置や形状、別筆・注記の状況が確認できるようになった。また、春日(1942)刊行以降、訓点語学の成果として共有されることとなった平安初期の訓法に関する知見もある。本コーパスの構築を開始した段階で、これらの情報を取り入れた新しい訓読文の作成が検討されるべき状況にあつたため、大きな決断ではあつたが、コーパス化するにあたり、まずこれを作成することにし

¹ 本解説書で言う「原本」は、西大寺本原本、ならびにその影印である総本山西大寺(2013)を指すものとする。

た。新訓読文の作成にあたっては、訓点語学の第一人者である月本雅幸先生（東京大学名誉教授）に全面的にご助言をいただき、田中草大氏（京都大学講師）にも新訓読文への助言や読みの根拠の収集に多くのご助力いただいた（ただし、最終的に取りまとめを行ったのはあくまで本解説書稿者である）。また、鴻野知暁氏（元東京大学助教）には、「尾張国解文」正中二年点のコーパス化（現在未公開）を試みた際の構築方法や課題などをご教示いただき、本コーパスはこれに基づきながら XML を試作してみるところから作業を開始した。まさに最初の足掛かりをいただいたことになる。その他にも、さまざまな方に学術・技術の面で多くのご教示をいただいた。すべての方々に厚くお礼を申し上げる次第である。

上記のような構築の困難さもあって、今回公開にこぎ着けたのは巻1分、総文字数15000字という極めて小さな規模のデータである。さらに、品詞・語形・活用型などの形態論情報も付与していない段階のXMLファイルである。しかし、現段階で形となった部分を公開し、ご意見をいただきながら巻2以降も公開される期を待ちたい。また、本コーパスが今後漢文訓読系資料のコーパス構築に寄与し、さまざまな漢文訓読系資料について構築が試みられることを期待している。

なお、「西大寺本金光明最勝王経平安初期点 巻一 訓読文 (xml)」の開発に携わったスタッフは次のとおりである。

●開発担当者

柳原恵津子、近藤明日子

●開発協力者

高田智和、小木曾智信、間淵洋子、鴻野知暁、佐伯俊源、高山倫明、
田中草大、月本雅幸

また、本コーパスは人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」の国立国語研究所ユニット「表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化」、科研費基盤研究（B）「訓点資料訓読文コーパスの構築と古代日本語史研究の革新」（18H00674）の成果の一部として構築されたものである。これらの助成にも厚く感謝申し上げます。

第2章 「西大寺本金光明最勝王經平安初期点 巻一 訓読文 (xml)」の仕様

1. コーパス化の対象

コーパス化の対象とするのは、西大寺本「金光明最勝王經」平安初期点の訓読文である。西大寺本「金光明最勝王經」全10巻は、天平宝字6(762)年に百濟豊虫によって本文(漢文)が書写されたもので、これに830年頃の白点(平安初期点)と、永長2(1097)年の朱点(永長点)が加添されている。本コーパスはこの資料の白点(平安初期点)を対象として訓読文を作成し、本文とした。ただし、次のものはコーパス化の対象外とする。

- (1)表紙
- (2)行間・欄外の注記
- (3)行間の貼り紙による本文の挿入あるいは修正(影印26ページ3行目「智」)
- (4)巻末の音注
- (5)巻末の原文奥書
- (6)巻末の百濟豊虫書写奥書

2. 文字入力

2.1. 基本方針

本文テキストの入力はすべて全角文字で行う。

2.2. 文字集合

使用する文字集合は、JIS X 0213:2004に準拠する²。

この文字集合にない外字については、コーパスの利便性を考え、できるだけ集合内の文字で入力する方針とする(2.3. 「外字」で詳説)。

2.3. 外字

写本という形態の資料が持つ性質上、本資料にはさまざまな字体の漢字が出現する。そのような漢字のうち、集合内の漢字と微細な字体差しかないものは、春日(1942)や

² ただし、①JIS X 0213 附属書7 2.1 b)に掲載される、戸籍法施行規則付則別表「人名用漢字許容字体表」(昭和56年法務省令51)の漢字、及び常用漢字表(昭和56年内閣告示第1号)のかっこ書き内の漢字(「いわゆる康熙字典体」)のうち、JIS X 0208で包摂していた漢字、②JIS X 0213:2004においてUCSとの互換のために追加された10字、についてはこれを用いない。

「国訳一切経」、「大正新修大蔵経」、江戸期版本等などを参照して字体の包摂を行いながら入力する。さらに JIS X 2013:2004 の包摂基準が適用される字体については字体包摂を行い、集合内の漢字で入力する。これらに該当する漢字について特にタグは付与しない。

上記の包摂基準は適用できないが、類似の意味・用法を持つ漢字が集合内にある場合は、その漢字で入力し、g タグを付与してタグの属性として原文の文字の情報を表す。

以上の処理を行ってもなお外字となる漢字は、「𐄣」（げた記号、JIS 面区点 1-02-14、U+3013）で入力し、g タグを付与してタグの属性として原文の文字の情報を表す。

2.4. 特殊な表記

テキストのうち、ヲコト点によって記された部分は okototen タグによって、仮名点によって記された部分は kanaten タグによって表す。原文に訓点による訓読のための情報がないが、訓読文を作成する上で必要と思われる箇所には作業者が補読を行い、その読みを hodoku タグによって表す。

漢字の読みは、ルビが付された文字列に ruby タグを付与し、内容は rubyText 属性によって表す。

本資料に濁点是用いられていないが、現行の表記で濁点の期待される仮名は濁点の付いた仮名で入力し、vMark タグを付与する。

踊り字は、踊り字で繰り返される文字を入力し、odoriji タグを付与する。

読み下す際に不読とするべき漢字は、mute タグ（空要素）内の text 属性の属性値として記す。

2.5. 異訓の優先順位

ひとつの漢字文字列に二通り以上の読みを示す情報が加点されている場合がある。そのような場合には、以下の優先順位で読み、優先順位の高いものから yakubun タグの nb 属性として訳文番号を記した。

- 1, ヲコト点 > 2, 仮名点 漢字右脇（左右並記：漢字の最も近く、上下並記：上） >
3. 仮名点 漢字右脇（左右並記：漢字からより右へ離れたもの、上下並記：下） >
- 4, 仮名点 漢字左脇 > 5, 別筆（大字・擦り消し）

2.6. 補読を伴う読みの確定方法について

一種類の訓点から複数の読みが想定できる場合は、原則としてより蓋然性の高い方の読みを採用した。蓋然性として同程度の場合には、一方の読みを記すことでもう一方の読みがあり得ることを推測できる方に統一した。

例 「にて」／「に（し）て」 → 「に（し）て」に統一

3. XML タグセット

3.1. 概要

西大寺本金光明最勝王經平安初期点「巻一 訓読文(xml)」は、本文テキスト（訓読文）に XML によって文書構造・文字・表記・符号類に関する情報を付与したものである。ひまわり版「西大寺本金光明最勝王經平安初期点訓読文コーパス」Ver.0.1、「巻一 訓読文(txt)」はこの XML に基づいて作成された。よって本 XML ファイルは本コーパスの根幹となるデータである。

1 巻 1 ファイルとし、本バージョンでは巻 1 にあたる部分を公開する。XML ファイルの符号化形式は UTF-8 (BOM なし)、改行コードは CR+LF である。本 XML ファイルに使用したタグの一覧は次の表 1 のとおりである。各タグで表される要素については続く各節で詳説する。なお、要素詳説であげる XML 例では、説明に不要なタグを省略して示す場合がある。また、当該 XML で示されている訓読文を「巻一 訓読文(txt)」の凡例に沿った形で示し、当該例が総本山山西大寺（2013）影印の何行目に見られるかを括弧内に記す。

表 1 タグセット一覧

タグ名	説明	詳説する節番号
text	本文 1 巻分のテキスト全体を表す。	3.2.1. (p.6)
body	訓読文本文にあたる文書要素を表す。	3.2.2. (p.7)
back	後付けに相当する文章要素を表す。	3.2.3. (p.7)
article	一つの品を表す。	3.2.4. (p.8)
p	段落に相当する文書要素を表す。	3.2.5. (p.8)
block	段落と同位の文書要素で、段落とは見なせないものを表す。	3.2.6. (p.9)
s	文を表す。	3.2.7. (p.9)
quotation	発話者等が前後の文書要素と異なっている文書要素（発話、偈頌など）の引用されている部分を表す。	3.2.8. (p.10)
pb	影印での改ページ位置を表す。	3.2.9. (p.11)
br	影印で認められる物理的な改行位置を表す。	3.2.10. (p.11)
odoriji	踊り字で表記されている箇所を表す。	3.3.1. (p.12)
g	コーパスの使用文字集合の範囲にない外字で、代用字や「𑖀」で入力したものを表す。	3.3.2. (p.12)

vMark	濁音を表記するにもかかわらず、原文では濁点のない仮名が使われていることを表す。	3.3.3. (p.13)
kanji	当該漢字に付された符号類や衍字の訓点を属性として示す。	3.3.4. (p.14)
okototen	その文字列（仮名）がヲコト点で書かれていることを表す。	3.3.5. (p.15)
kanaten	その文字列（仮名）が仮名点で書かれていることを表す。	3.3.6. (p.15)
hodoku	ヲコト点・仮名点として書かれていないが、読みを補助するため、作業者により補われた仮名を表す。	3.3.7. (p.16)
mute	訓読文中不読字として処理した文字を表す。	3.3.8. (p.16)
period	当該箇所には句読点が付されていることと、および記されている位置を示す。	3.3.9. (p.17)
aPhone	当該の文字（「え（ア行・ヤ行）」または「こ」（上代特殊仮名遣い）の原本での表記を示す。	3.3.10. (p.17)
ruby	当該漢字に仮名点またはヲコト点として振られ、または難読の箇所に作業者が読みを補い、漢字の読みを示す部分を表す。	3.4.1. (p.18)
rb	読みが振られた漢字文字列であることを示す。	3.4.2. (p.18)
rt	rb 要素で示した漢字文字列に仮名点またはヲコト点で付された、または作業者が補った読みであることを示す。	3.4.3. (p.18)
choice	異訓として複数の訓読文が作成できる場合に、それらを括り、並列する訓読文であることを示す。	3.4.4. (p.19)
yakubun	choice 要素の子要素として用い、並列する複数の訓読文のひとつであることを示す。	3.4.5. (p.19)
betsuhitsu	当該文字列が、別筆で記されていることを示す。	3.4.6. (p.20)

3.2 文章構造に関わる要素

3.2.1. text 要素

説明

本文 1 巻分のテキスト全体を表す。body, back 要素を合わせたものに相当する。

属性

- title (必須)：資料名。
- yearGembunShosha (必須)：百済豊虫による原文書写年代。属性値は「762」。
- year (必須)：本資料に白点の記入された年次。属性値は「830 頃」。
- volume (必須)：記事の巻次。属性値は「01」。
- version (必須)：XML ファイルのバージョン。属性値は「0.1」。

XML 例

```
<text title="金光明最勝王經平安初期点" yearGembunShosha="762" yearHakuten="830 頃" volume="01"
version="0.1 ">
<body>
  (...中略...)
</body>
<back>
  (...中略...)
</back>
</text>
```

(訓読文省略)

3.2.2. body 要素

説明

訓読文本文にあたる文書要素を表す。複数の品 (=article 要素) からなる。

属性

なし

XML 例

```
<text title="金光明最勝王經平安初期点" yearGembunShosha="762" yearHakuten="830 頃"
volume="01" version="0.1">
<body>
<article nb="01">
  (...中略...)
</article>
<article nb="02">
  (...中略...)
</article>
</body>
<back>
  (...中略...)
</back>
</text>
```

(訓読文省略)

3.2.3. back 要素

説明

後付けに相当する文書要素を表す。本コーパスでは尾題に相当する。

属性

なし

XML 例

```
<text title="金光明最勝王經平安初期点" yearGembunShosha="762" yearHakuten="830 頃" volume="01"
version="0.1">
<body>
  (...中略...)
</body>
<back>
<block>
<s>金光明最勝王經卷第一</s>
</block>
</back>
</text>
```

(訓読文省略)

3.2.4. article 要素

説明

一つの品を表す。

属性

- nb (必須) : 品の番号。

XML 例

```
<body>
<article nb="01">
<block>
  (...中略...)
</block>
<p>
  (...中略...)
</p>
</article>
<article nb="02">
  (...中略...)
</article>
</body>
```

(訓読文省略)

3.2.5. p 要素

説明

段落に相当する文書要素を表す。原則として本文で一字下げとなっている部分を一つの段落と認定するが、韻文の部分は、その前・後の散文の部分を含めてひとつづきの段落と考え、独立した段落とはしない（物理的な改行は br 要素で示す）。

属性

なし

XML 例

```
<p>
<s>
  (…中略…)
</s>
<s>
  (…中略…)
</s>
</p>
```

(訓読文省略)

3.2.6. block 要素

説明

段落と同位の文書要素で、段落とは見なせないものを表す。本コーパスでは「巻名・品名・漢訳作者名」を記した部分がこれに該当する。

属性

なし

XML 例

```
<article nb="01">
<block>
<s><pb n="004"/> 金の光明ありて最勝なること王のごとくいます (…中略…) 經序品第一</s>
<s>三藏法師義淨 制を奉りて譯す<br/></s>
</block>
<p>
  (…中略…)
</p>
</article>
```

金の光明ありて最勝なること王のごとくいます (…中略…) 經序品第一
三藏法師義淨 制を奉りて譯す (影印 1 行目)

3.2.7. s 要素

説明

文を表す。文境界は、実際に加点了句点や構文的な条件によってまず定め、不明な部分については春日（1942）の句点などを参考にしながら作業者が決定した。

属性

- type (任意):

➤fragment…引用を含むために、一文であるにもかかわらず複数の s 要素に分割された結果生じた、文の一部を内容とする s 要素であることを表す。

XML 例

例1 通常（属性なし）の s 要素

```
<s>皆是れ阿羅漢なり<period position="left">。</period></s>
```

皆是れ阿羅漢なり。（影印 4 行目）

例2 type 属性が「fragment」の s 要素

```
<s type="fragment">是の時に（…中略…）是の思惟を作さく<period position="left">、</period></s>
<quotation type="speech">
<s>
（…中略…）
</s>
</quotation>
<s type="fragment">とおもふ<hodoku>。</hodoku></s>
```

是の時に（…中略…）是の思惟を作さく、（…中略…）とおもふ。（影印 112 行目）

3.2.8. quotation 要素

説明

発話者等が前後の文書要素と異なっている文書要素（発話、偈頌など）の引用されている部分を表す。

属性

- type（必須）：引用の種類
 - speech…会話・心話等の引用
 - verse…偈頌の引用

XML 例

例1 type 属性が「speech」の quotation 要素

```
<s type="fragment">是の時に（…中略…）是の思惟を作さく<period position="left">、</period></s>
<quotation type="speech">
<s>何の因縁を以てか<period position="left">、</period>（…中略…）あらむ<hodoku>。</hodoku></s>
</quotation>
<s type="fragment">とおもふ<hodoku>。</hodoku></s>
```

是の時に（…中略…）是の思惟を作さく、「何の因縁を以てか、（…中略…）あらむ。」とおもふ。（影印 112 行目）

例2 type 属性が「verse」の quotation 要素

```
<s type="fragment">而して頌を説きて曰はく、<br/></s>
<quotation type="verse">
<s> 金光明の妙法は<hodoku>、</hodoku> 最勝にして諸の經の王といます<period position=
"left">。</period></s>
<s>
(…中略…)
</s>
</quotation>
<s type="fragment">とのたまふ。<br/></s>
```

而して頌を説きて曰はく、「金光明の妙法は、 最勝にして諸の經の王といます。(…中略…)」とのたまふ。(影印 84 行目)

3.2.9. pb 要素

説明

影印（総本山山西大寺（2013））での改ページ位置とページ番号を表す。空要素。ページの境界が返読する部分に該当する場合は、影印で当該ページの 1 行目 1 文字目に置かれた漢字の直前をページ境界とする。

属性

- n（必須）：影印（総本山山西大寺（2013））の頁番号を付す。取り得る属性値は「001」から「030」（巻 1 の範囲）である。

XML 例

```
右に三<pb n="005"/>帀繞りて<period position="left">、</period>
```

右に三帀繞りて、(影印 13-14 行目)

3.2.10. br 要素

説明

影印で認められる物理的な改行位置を表す。韻文（quotation 要素のうち type 属性の属性値が verse の場合）の始まる前など、文中で改行が入っている場合にも記す。空要素。

属性

なし

XML 例

例1 文末での物理的改行

```
<p>
<s> (…中略…) 一面に坐しぬ<hodoku>。 </hodoku><br/></s>
</p>
```

一面に坐しぬ。(影印 14 行目)

例2 quotation要素直前の物理的改行

```
<p>
(…中略…)
<s type="fragment">而して頌を説きて曰はく<hodoku>、 </hodoku><br/></s>
<quotation type="verse">
<s> (…中略…) </s>
</quotation>
<s type="fragment">とのたまふ<hodoku>。 </hodoku><br/></s>
</p>
```

而して頌を説きて曰はく、
(…中略…) とのたまふ。(影印 84 行目)

3.3. 本文修正に関わる要素

3.3.1. odoriji 要素

説明

踊り字で表記されている箇所を表す。

踊り字が繰り返す文字列を odoriji 要素の内容とし、原文の踊り字は originalText 属性として入力する。

属性

- originalText (必須)：原文の踊り字を表す。

XML 例

```
<kanaten>つ</kanaten><kanaten><odoriji originalText="ゝ">つ</odoriji></kanaten><kanate
n>ふ</kanaten><kanaten>ね</kanaten>
```

ツゝフネ (影印 250 行目)

3.3.2. g 要素

説明

コーパスの使用文字集合(「2.2 文字集合」の項参照)の範囲にない外字で、コーパス本文を意味・用法・字形の類似する他の文字(代用字)や「■」で入力したものを表す。

属性

- type (必須): 属性値は「外字」である。
- ref (必須): Unicode の 16 進コードの先頭に「U+」を加えた文字列を値とする。

XML 例

例1 代用字を用いた例

```
梨車<g type="外字" ref="U6BD7">毘</g>の童子
```

梨車@毘=U+6BD7@の童子 (影印 49 行目) ※原本では「毗」

例2 𠩺で示した例

```
大雲の<g type="外字" ref="U+27AE6">𠩺</g>を破する菩薩
```

大雲の@𠩺=U+27AE6@を破する菩薩 (影印 46 行目) ※原本では「𠩺」

3.3.3. vMark 要素

説明

濁音を表記するにもかかわらず、原文では濁点のない仮名が用いられていることを表す。

属性

なし

XML 例

例1 okototen 要素内の vMark 要素

```
いますもの<okototen>となら<vMark>ば</vMark></okototen>、
```

いますものとならは、(影印 218 行目)

例2 kanaten 要素内の vMark 要素

```
求む<kanaten><vMark>べ</vMark></kanaten><kanaten>し</kanaten>。
```

求ムヘシ。(影印 241 行目)

例3 hodoku 要素内の vMark 要素

```
生<hodoku><vMark>ぜ</vMark></hodoku>しめ
```

生(せ)しめ(影印 229 行目)

3.3.4. kanji 要素

説明

当該漢字に付された符号類や衍字の訓点を属性として示す。本要素とする漢字は、
(1) 返り点 (hendoku 属性・lHendoku 属性)、(2) 合符・分別符、(2) 衍字として処理すべき訓点類、のいずれかが加添されているものである。

属性

- hendoku: 当該漢字の右傍に記された返り点を表す。属性値は「一」「二」「三」「四」「上」「下」である。
- lHendoku: 当該漢字の左傍に記された返り点を表す。属性値は「一」「二」「三」「上」「下」である。
- hendokuSurikeshi: 返読符号が擦り消されている場合に用いる。取り得る属性値は「一」「二」である。
- mark: 当該漢字やその下に付された返読符号・句読点・ヲコト点・仮名点以外の符号を表す。属性値は「gofu (合符・中央)」「lGofu (合符・左傍)」「bumbetsufu (分別符)」である。
- enji0koto: 当該漢字に付されているヲコト点が、訓読文に反映するのはむずかしい衍字であると判断される場合に記す。属性値は衍字としたヲコト点の内容である。
- enji0kotoSurikeshi: 当該漢字に付されているヲコト点が、擦り消された状態にあり、かつ訓読文に反映するのはむずかしい衍字であると判断される場合に記す。属性値は、衍字としたヲコト点 (擦り消し) の内容である。
- enjiMark: 当該漢字に付されている符号類 (合符、分別符、句点、返読符号) が、訓読文に反映するのはむずかしい衍字であると判断される場合に記す。属性値は「period」「gofu」「lGofu」「bumbetsufu」である。
- rbEnji0koto: 訓読文に反映するのはむずかしい衍字であると判断されるヲコト点、漢字右端下星点で記された「と」であることを示す (漢字左端中星点「と」には該当例なし)。属性値は「と」である。

XML 例

例1 hendoku、lHendoku 属性を持つ場合の kanji 要素

```
供養せ<kanji hendoku="一">令</kanji>むること<kanji hendoku="二">有</kanji>りと<kanji  
hendoku="三">説</kanji>きたまひ、
```

供養せ令〈一〉むることと有〈二〉りと説〈三〉きたまひ (影印 269 行目)

例2 mark 属性を持つ場合の kanji 要素

```
<kanji mark="gofu">駛</kanji>水に
```

駛一水に（影印 238 行目）

例3 衍字関係の属性を持つ場合の kanji 要素

```
<kanji enjiMark="period">不</kanji>
```

不（影印 61 行目）

3.3.5. okototen 要素

説明

その文字列（仮名）がヲコト点で書かれていることを表す。ひとつの点で表す文字列全体を 1 要素とする。

属性

- id（任意）：ひとつのヲコト点で記された部分が、ルビとその前後に分かれる場合に、同一のヲコト点で記されていることを示すために付与する一意の数値。

XML 例

例1 id 属性なしの場合

```
無上菩提<okototen>に</okototen>
```

無上菩提に（影印 54 行目）

例2 id 属性ありの場合

```
上首<okototen position="rb">と</okototen><ruby><rb>爲</rb><rt><okototen id="003">せ</okototen></rt></ruby><okototen id="003">り</okototen>
```

上首と爲【せ】り（影印 53 行目）

3.3.6. kanaten 要素

説明

その文字列が仮名点で書かれていることを表す。ひとつの文字で記されている文字列全体を 1 要素とする。

※「ごとし」が「如」1 字で表記されているような場合、全体で 1 要素とする（XML 例 1 を参照）。同様の例に、「おもふ（念）」、「こと（事）」、「ひと（人）」、「まをす（申）」、「もちて（以）」がある。

属性

- position（任意）：仮名点が記されている場所を示す。漢字の左傍に記入されている場合に使用し、右傍にある場合は2種以上の訓が記されている場合以外記さない。取り得る属性値は「left」「right2」である。

XML 例

例1 position 属性なしの場合

```
金の<kanaten><vMark>ご</vMark>と</kanaten><kanaten>く</kanaten>
```

金の『ごと』く（影印 65 行目）

例2 position 属性ありの場合

```
有<kanaten position="left">り</kanaten>
```

有#り#（影印 75 行目）

3.3.7. hodoku 要素

説明

ヲコト点・仮名点として書かれていないが、読みを補助するため、作業者により補われた仮名を表す。

属性

なし

XML 例

```
告<hodoku><vMark>げ</vMark></hodoku>て言<hodoku>は</hodoku>く
```

告（け）て言（は）く（影印 140 行目）

3.3.8. mute 要素

説明

訓読文中不読字として読む漢字を表す。空要素。

属性

- text（必須）：原文に記されている不読字を表す。属性値には当該漢字が入る。

XML 例

```
<mute text="於"/>諸の經の中に
```

[於] 諸の經の中に（影印 228 行目）

3.3.9. period 要素

説明

当該箇所句読点の位置を示す。影印では、訓読文にする場合に句点とするもの、読点とするものの双方が同じ符号で同じ位置にされているが、訓読文とする際に、句や節の末尾にあたる場合は読点として、文末にあたる場合は句点として記す。

属性

- position (必須)：その句読点の位置を示す。属性値は left (漢字左下に記されたもの) または right (漢字右下に記されたもの) である。

XML 例

例1 句点として読む例

```
求むべし<period position="left">。</period>
```

求むへし。(影印 251 行目)

例2 読点として読む例

```
供養して<period position="left">、</period>
```

供養して、(影印 233 行目)

3.9.10. aPhone 要素

説明

当該の文字(「え」または「こ」)の原本での表記を示す。本資料には「え」にア行(「衣」)ヤ行(「江」)の別、「こ」に上代特殊仮名遣いの甲類(「古」)と乙類(「己」)の書き分けが見られる。これらの書き分けを originalText 属性として示す。

属性

- originalText (必須)：当該の仮名(「え」または「こ」)の原本での表記を示す。属性値は「え」の場合は「衣」または「江」、「こ」の場合は「古」または「己」である。

XML 例

```
<ruby><rb><kanji lHendoku="一">得</kanji></rb><rt><kanaten><aPhone originalText="衣">え</aPhone></kanaten></rt></ruby>令めむ
```

得<(左)一>【&E(衣)え】令めむ(影印 205 行目)

3.4 その他の要素

3.4.1. ruby 要素

説明

ruby 要素

当該漢字に仮名点またはフコト点として振られた、または難読の箇所に作業者が読みを補った、漢字の読みを示す部分を表す。子要素の rb 要素で漢字本文を、rt 要素で漢字の読みを示す。

自立語の傍書に助詞が表記されている場合、その助詞は漢字の読みとは見なさず、本文に組み込む。例えば、漢文本文の「我」に「ワガ」と仮名点で傍書されている場合、「ワ」だけを rt 要素として扱い、「ガ」は訓読文本文中に記す。

属性

なし

XML 例

```
<ruby><rb>聞</rb><rt><kanaten>き</kanaten></rt></ruby><kanaten><odoriji originalText="\">き</odoriji></kanaten>已りて
```

聞【キ】ゝ已りて（影印 251 行目）

3.4.2. rb 要素

説明

読みが振られた漢字文字列であることを示す。ruby 要素の子要素として rt 要素とセットで用いる。

属性

なし

XML 例

```
<ruby><rb>言</rb><rt><okototen>のたま</okototen></rt></ruby>へる、
```

言【のたま】へる、（影印 272 行目）

3.4.3. rt 要素

説明

rb 要素で示した漢字文字列に仮名点またはヲコト点で付された、または作業者が補った読みであることを示す。ruby 要素の子要素として、rb 要素とセットで用いる。

属性

なし

XML 例

```
<ruby><rb>於</rb><rt><hodoku>こ</hodoku></rt></ruby><kanaten>れ</kanaten>
```

於【(こ)】レ (影印 258 行目)

3.4.4. choice 要素

説明

異訓として複数の訓読文が作成できる場合に、それらを括り、並列する訓読文であることを示す。

属性

なし

XML 例

```
<choice><yakubun nb="1">利し喜あらしめ</yakubun><yakubun nb="2">利喜せしめ</yakubun></choice>
```

『利し喜あらしめ〔利喜せしめ〕』 (影印 339 行目)

3.4.5. yakubun 要素

説明

choice 要素の子要素として用い、並列する複数の訓読文のひとつであることを示す。

属性

- nb (必須): choice タグの中に並記された複数の読みのうち、いくつめの本文であることを示す。属性値は 1, 2, 3...である。

※読みの優先順位について

・原本に複数の読みのための訓点が生ずる場合には、原則としてヲコト点→仮名点 (右) →仮名点 (左)、同じ行間に仮名点が生ずる場合には上→下、内→外、に記されている順に属性 nb の番号を付す。

XML 例

例1 ヲコト点と仮名点の読みの例

```
<choice><yakubun nb="1">言論することは<ruby><rb>爲</rb></yakubun><yakubun nb="2">  
<mute text="爲"/>言論はせ</yakubun></choice><rb></rb>。
```

『言論することは爲〔〔爲〕 言論はせ〕』不。（影印 253 行目）

例2 一方が文末、一方が句末の例

```
<s>（…中略…）<choice><yakubun nb="1">調伏せり。</yakubun><yakubun nb="2">調伏  
し、</yakubun></choice></s>
```

『調伏せり。〔調伏し、〕』（影印 4 行目）

※choiceタグで括ったyakubunのうち、一方が文末（。）として読み、もう一方が続く（、）形となっている場合、当該部分直後の文境界の有無はyakubun nb="1"の末尾の形式で判定する。すなわち、yakubun nb="1"の末尾が「。」、yakubun nb="2"（nb="3"以降を含む。以下同）の末尾が「、」の場合は</choice>の後に</s>。<s>を記す。

3.4.6. betsuhitsu 要素

説明

当該文字列が、別筆で記されていることをしめす。春日（1942）によると、平安初期白点は「凡そ七種ぐらゐ」（研究篇 20 ページ）あるが、識別が困難であるので、明らかに大ぶりの字で書かれた場合のみ type 属性を「daiji」として区別した。また、相当擦り消されて（あるいは消えてしまって）ほとんど見えない訓点は、通常の筆致の場合は type 属性を「surikeshi」、大ぶりの字の場合は「daijiSurikeshi」として区別した。

属性

- type（必須）：当該の文字列の筆致の種類を示す。属性値は「daiji」「daijiSurikeshi」「surikeshi」である。

XML 例

```
持と<betsuhitsu type="daijiSurikeshi"><okototen>して</okototen></betsuhitsu>
```

持と%（大消）して%（影印 118 行目）

参考文献

春日政治[編]（1942）『西大寺本金光明経古点の国語学的研究』斯道文庫（ただし、作業の際には『春日政治著作集』別巻、1985 年、勉誠社版を参照した）

田中草大・鴻野知暁・田中牧郎（2017）『『尾張国解文』正中二年点のコーパス化とその可能性』、第 117 回訓点語学会研究発表会、2017 年 10 月 22 日（於東京大学）

総本山西大寺〔編〕（2013）『国宝西大寺本金光明最勝王經天平宝字六年百濟豊虫願經』勉強出版